

実践記録（小5・国語）

1 ねらい

自他の異なる立場の意見となる情報の交流を通し、自分の考えを広げることができる。

2 手だて



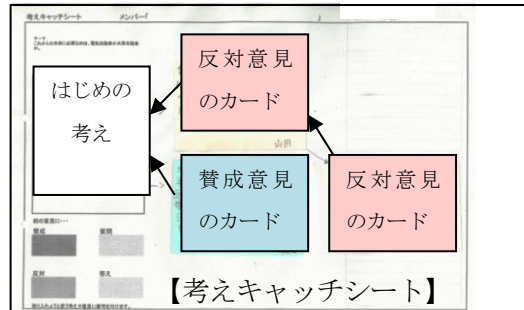
電気自動車



水素自動車

【エコカーについての出前授業の様子】

既習内容を話し合いのテーマにする。
(上の写真は社会科の学習の様子)



どの考えに対しての意見が分かるように、矢印を付けて付箋紙を貼りながら情報の交流を行う。

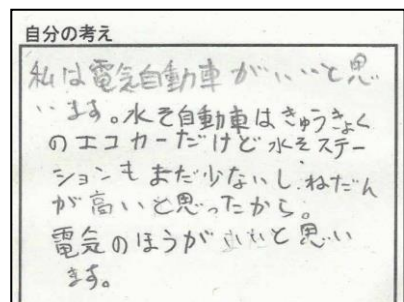
3 実践の様子

社会科「これからの工業生産とわたしたち」で学習した電気自動車と燃料電池車（水素自動車）をテーマに、これからの日本の自動車産業にとってどちらに力を入れるべきか、話し合いを行った。

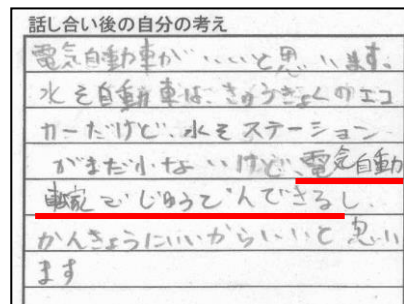
はじめに、電気自動車と燃料電池車の大きな特性を学級全体で確認し、自分の立場を決めた。そして、自分の立場について、インターネットや出前授業で聞いた話や資料を基に、詳しく調べ、初めの自分の考えを「考えキャッチシート」に記述した。

次に、「考えキャッチシート」を持ち寄ってグループでそれぞれの考えについて話し合った。電気自動車の立場をとったA児に対して「水素自動車は高いけど、水しか出さないので環境に良いです。」（ピンクのカードの反対意見）「家でも充電できるので災害時に役立ちます。」（青いカードの賛成意見）など、他の子どもは、考えを読むとすぐにカードを書き始めて次々に貼っていった。

その後、取り入れる友達の考えとその理由を「考えキャッチシート」に書き出し、自分の考えを再考した。初めの考えでは「水素自動車は高いので、電気自動車の方が良い」と書いていたのが、「家で充電ができるので、電気自動車が良い」と考えを広げていた。



【はじめの考え】



【話し合い後の考え】

4 成果と課題

- 既習の内容を話し合いのテーマにしたことで、初めの立場が取りやすくなり、個々の立場やそれに対する根拠がもちやすくなった。
- 考えキャッチシートにより、思考が可視化され、質問や考えを再構築することが容易になり、考えが広がった。
- 最後の考えを伝え合う場面では、考えの基となる資料や他の子の意見が書かれた「考えキャッチシート」を使うことで、自信をもって発表することができた。
- 「考えキャッチシート」を使うにあたって、他のテーマでの練習を何度か行い、慣れるまでに時間が必要であった。